

令和元年 5月 7日
岐阜県立飛騨高山高等学校
国土交通省高山国道事務所

ビオトープ“飛騨の森再生”における水生昆虫・樹木生育調査 ～飛騨高山高校生徒が今年度最初の環境学習を実施～

1. 概要 : 高山西IC内に設けたビオトープ“飛騨の森再生”において、平成22年度から飛騨高山高校生徒が環境学習を実施しています。
今年度最初の実施になる今回は3年生生徒31名が、春に見られる水生昆虫（トンボのヤゴ等）の捕獲・識別実習と樹木の生育調査等を行います。
2. 日時 : 令和元年 5月10日（金）10:00～12:00
【予備日 5月24日（金）14:00～16:00】
3. 場所 : 中部縦貫自動車道高山清見道路 高山西インターチェンジ内
ビオトープ“飛騨の森再生”（高山市清見町牧ヶ洞地内）
4. 参加者 : 岐阜県立飛騨高山高等学校 環境科学科 3年生31名
5. 添付資料 : 別紙1～3のとおり
6. 配布先 : 高山記者クラブ
7. 問合せ先 : 岐阜県立飛騨高山高等学校 山田キャンパス
環境科学科 原 康彰（はら やすあき）
TEL 0577-33-1060
FAX 0577-32-8994

国土交通省中部地方整備局 高山国道事務所
計画課長 大崎 義保（おおさき よしやす）
TEL 0577-36-3822
FAX 0577-36-3801



学習内容

今年度最初の実習は 3 年生 31 名が参加して、ビオトープ内調整池において、春によく見られる水生昆虫（トンボのヤゴ等）の捕獲・識別調査と樹木の生育状況調査を行います。

水生昆虫調査

ビオトープ内調整池は、カエル類やトンボ類、ドジョウ等、様々な水生生物が見られ、また春に羽化するエゾイトトンボ、シオヤトンボといったトンボの仲間の飛翔も見られます。今回の学習は、ビオトープに生息する水生昆虫を捕獲して観察を行い、種の識別を行うことで、春の水辺に生息する昆虫について学習します。

昨年度の学習状況(平成30年5月21日実施)



【ビオトープについて説明を聞く1年生】



【水生昆虫(トンボのヤゴ等)の捕獲】



【捕獲した水生昆虫(トンボのヤゴ)のスケッチ】

樹木調査

ビオトープ内に生育している樹木について位置図を作成し、毎年樹木調査を行ってきました。今回は、これら経年調査を行っている樹木について、樹木の種類を観察するためスケッチを行うとともに、成長の度合いを確認します。

昨年度の学習状況(平成30年5月21日実施)



【樹木の説明を聞く1年生】



【樹木の生育状況調査】



高山西 I C ビオトープ “飛驒の森再生”

1. ビオトープ“飛驒の森再生”整備

中部縦貫自動車道高山清見道路の建設により、動植物の生息・生育環境が分断され、従来の自然環境が大きく変化する可能性があります。そのため、インターチェンジ内を『飛驒の森再生』として位置付け、調整池の自然利用及び周辺植生の遷移促進を含めた計画をし、平成16年11月に高山清見道路（飛驒清見 I C～高山西 I C）の供用と同時にビオトープが完成しました。

さらに、平成22年7月には、飛驒高山高等学校と高山国道事務所で「維持管理に関する協定」を締結し動植物の生息・生育環境創生に取り組んでおります。



整備直後(H16. 11)



現在の生育状況(H30. 5)

2. 現在のビオトープの状況

完成してから14年が経過した調整池を含むインターチェンジ内の環境は大きく改善し、ビオトープに移植した根株・貴重植物ともに生育状況は良好です。また、周辺域から在来種も入り、ビオトープ内は調整池や植生の変化に併せて、両生類（カエル）や昆虫類（トンボやバッタ）などの定着も順調に進み、生物の多様化が進んでいます。

また、同校との協働による継続的な維持管理活動により、貴重な植物が繁殖又は再確認されるなど、様々な動植物の生息・生育環境が維持されています。

確認された重要種など

陸域



移植した重要種
(キキョウ)



確認された重要種
(マルタンヤンマ)

水域



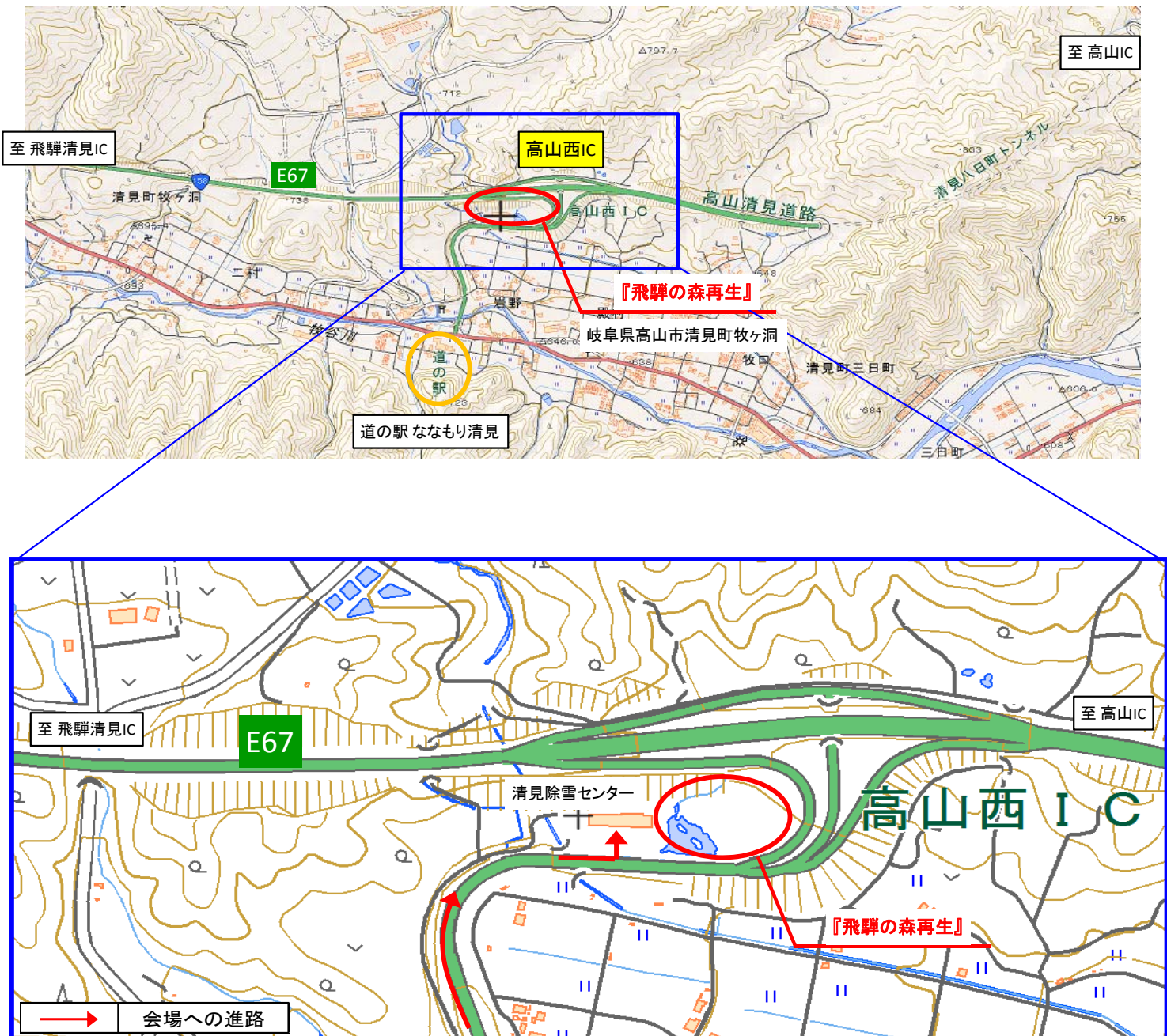
確認された重要種
(モリアオガエル)



確認された重要種
(ミズオオバコ)

環境学習 実施位置図

実施場所：高山西IC内ビオトープ「飛驒の森再生」



取材希望がございましたら清見除雪センターにお集まり下さい。